

平成 28 年度一般社団法人日本生理学会第 2 回理事会議事録

日 時： 平成 28 年 11 月 23 日（月） 13:00～16:30

場 所： 東京慈恵会医科大学 B 会議室

[出席者]

理事長 丸中良典（議長）

理 事 赤羽悟美、伊佐 正、石川義弘、井上隆司、井本敬二、上田陽一、老木成稔、
岡村康司、尾仲達史、小野克重、柏柳 誠、狩野方伸、久場博司、久保義弘、
鯉淵典之、小林 誠、篠田 陽、徳田雅明、富永真琴、中島 昭、鍋倉淳一、
林由起子、藤井 聡、南沢 享、八尾 寛、柚崎通介、渡辺修一、渡辺 賢（計 28 名）

監 事 加藤総夫、小西真人、松井秀樹

陪席者 秋田天平、井手正和、浦野哲盟、河西晴郎、倉智嘉久、齋藤康彦、佐久間康夫、
多久和典子、當瀬規嗣、平野勝也、藤山理恵、古谷和春、御子柴克彦

[欠席者]

理 事 小川園子、尾野恭一、北澤 茂、黒澤美枝子、澁木克栄、渋谷まさと、田中潤也、
福田敦夫、船橋利也、船橋 誠、前田正信、蒔田直昌、宮田麻理子（計 13 名）

定数 42 名に対し、29 名の理事が出席し、定款により、本理事会は適法に成立した。

I. 報告及び協議事項

1. 理事長挨拶

定刻となり開催する旨宣言された。

2. 庶務報告（丸中理事長）

日本生理学会（以後、PSJ）より推薦した研究助成のうち、次の 2 件が採択されたことが報告された。（敬称略）

- ・ 第 48 回内藤記念海外学者招聘助成金（前期）
福田敦夫：第 94 回日本生理学会大会プレナリーレクチャー招聘
- ・ 第 44 回内藤記念講演助成金（秋季）
深田正紀

3. 財務報告（石川副理事長）

以下 6 点について報告された。

- 1) 平成 28 年度予算額より 9 月末決算額および決算額（見込み）の経常収益合計額が上回るのは、平成 28 年度分科研費収入、認定エデュケーター制度収入、会費収入に因る。
- 2) 第 93 回日本生理学会大会抄録集の負担を始めとして、国際交流支出（KOJACH 他）や管理費の削減により、予算よりも経常費用が減る見込みである。
- 3) FAOPS 会費は 2 年に 1 度納入することになっており、平成 28 年度が納入年度にあたる。しかし請求書が PSJ へ届く時期によっては、平成 29 年度予算での支出となる。
- 4) 平成 29 年度科研費収入が確定していないため、平成 29 年度予算案経常収益に含めていない。そのため、平成 28 年度決算額（見込み）の経常収益よりも金額は低めで設定している。
- 5) 日本生理学雑誌（以後、日生誌）季刊化により印刷代、送料ともに費用削減が期待され、そのため平成 29 年度予算案経常費用は、平成 28 年度決算額（見込み）より低めで設定している。

- 6) 平成 29 年度予算案では黒字化を目指しており、支出を抑えることで実現すると思われるため、引き続き経費節約を心掛けた運営が望ましい。

4. 編集・広報委員会報告（上田委員長）

以下 3 点について報告された。

- 1) 平成 28 年度までは日生誌を年 6 回発行としているが、翌 29 年度からは 4 回発行（2 月、5 月、8 月、11 月）とする。また原稿提出締切は、発行月の 2 ヶ月前に設定する。
- 2) 平成 29 年より、表紙のデザイン変更を検討している。
- 3) 最新の情報を、より迅速に会員へ配信できるよう、PSJ のホームページ（以後、HP）およびメール配信を強化する。

5. JPS 編集委員会報告（石川委員長）

以下 5 点について報告された。

- 1) JJP 創刊以来、初めて Impact Factor（以後、IF）が 2.165 となり、2.0 を上回った。
- 2) Springer Link からのダウンロード数が平成 28 年末で 40,000 件となることが見込まれる。平成 20 年（同 176 件）と比較すると増加が目覚ましいことがわかる。
- 3) 査読のスピードアップが課題であり、引き続き担当者に協力をお願いする。
- 4) 入澤宏・彩記念 JPS 論文賞は、選考の結果次の論文となった。
 - ・ JPS 優秀論文賞（入澤賞）
 - 論文名： Reciprocal effects of capsaicin and menthol on thermosensation through regulated activities of TRPV1 and TRPM8
 - 著者： Takaishi, Masayuki; Uchida, Kunitoshi; Suzuki, Yoshiro; Matsui, Hiroshi; Shimada, Tadashi; Fujita, Fumitaka; Tominaga, Makoto
 - 掲載： JPS Vol.66 No.2 pp.143-155
 - ・ JPS 心臓・循環論文賞（入澤記念循環賞）
 - 論文名： Partial cavopulmonary assist from the inferior vena cava to the pulmonary artery improves hemodynamics in failing Fontan circulation: a theoretical analysis
 - 著者： Shimizu, Shuji; Kawada, Toru; Une, Dai; Fukumitsu, Masafumi; Turner, Michael James; Kamiya, Atsunori; Shishido, Toshiaki; Sugimachi, Masaru
 - 掲載： JPS Vol.66 No.3 pp.249-255
- 5) IF の上昇を受けてオープンアクセス化を進めたい。しかしオープンアクセス化を進めるだけでは、費用が現状よりかかる恐れがある。そのため、過剰負担を避けつつも Author に費用一部負担の理解を得る、また冊子体での発行部数を減らす等の案を出す必要がある。委員会で継続審議とする。

6. 会員委員会報告（小野委員長）

報告なし

7. 選挙管理委員会報告（林委員長）

以下について報告された。

- ・ 日本生理学会理事選挙規則に従い、以下の要領で平成 29 年度に地区別理事選挙を行う。

投票期間	平成 29 年 12 月 1 日（金）－ 12 月 18 日（月）
投票方法	インターネットによるオンライン投票
選挙権	平成 29 年度分年会費納入済の評議員
被選挙権	平成 29 年度分年会費納入済の評議員。平成 30 年 3 月時に満 65 歳未満の、現理事を除く評議員。

8. 教育委員会報告（鯉淵委員長）

以下3点について報告および審議がなされた。

- 1) 委員会を平成28年3月21日と7月24日に開催し、第93回日本生理学会大会（以後、札幌大会）時の教育プログラム運営確認と、シニアエドゥケーター認定検討をそれぞれ行なった。
- 2) 医学生生理学クイズ日本大会2017が、大阪医科大学生理学教室に所属する学生によって、平成29年4月16日に開催される。PSJの後援と、大会発案者であるChen氏（マレーシア・マラヤ大学）の宿泊費、および教育委員会委員2名の旅費をPSJ負担とすることを本理事会に諮り、全て承認された。Chen氏の宿泊費および委員の旅費は、教育委員会の委員会活動費より支出する。
- 3) 「医学生生理学クイズ日本大会」の名称では、医学部学生のみを対象としていると誤解を与えかねないため、平成30年以後の開催時には「学生生理学クイズ日本大会」に名称変更することをPSJより提案する。

9. 生理学エドゥケーター認定制度委員会（中島委員長）

以下4点について報告および審議がなされた。

- 1) 札幌大会で開催した教育プログラムの受講ポイントを、誤って消去してしまった。受講ポイントはエドゥケーター認定の要件であるため、一斉メールで会員全体へ呼びかけ、該当者より連絡を受けてデータを完成させた。再発防止策を委員会で検討している。
- 2) 平成28年度の出願受付期間は7月1日から7月31日とし、57名が出願した。9月11日に審査を実施し、登録申請可とした申請者57名を「生理学エドゥケーター」認定とすることを諮ったところ、承認された。
- 3) 登録申請を済ませた対象者には、平成29年1月末迄に認定証送付予定とする。
- 4) 「生理学エドゥケーター」認定制度規約に認定更新に関する条目追加が提案され、承認された。条目は同規約第11条2とする。

10. 学術・研究委員会報告（赤羽委員長）

以下2点について報告および審議がなされた。

- 1) 第94回日本生理学会大会（以後、浜松大会）に、フォーラム「科研費審査システム2018のめざすところ」を企画し、ランチョン枠で開催されることとなった。
- 2) フォーラム「科研費審査システム2018のめざすところ」は、性質上企業のサポートに頼ることはPSJとして望ましくないと考える。招待演者の勝木元也氏の旅費実費（上限30,000円見込）と、ランチョン参加者のランチ代（600円/人、上限12万円見込）を学術・研究委員会の委員会活動費として支出することを本理事会に諮り、承認された。

11. 他学会連携委員会報告（黒澤委員長代理：赤羽委員）

計7シンポジウム（3件を委員会企画シンポジウム、4件を委員会企画シンポジウム）を浜松大会に提案した。

12. 研究倫理委員会報告（北澤委員長代理：丸中理事長）

以下2点について報告された。

- 1) 日本医学会連合からの「日本医学会連合研究倫理委員会提言（案）」に対するPSJの回答案を作成した。
- 2) 霊長類実験動物を対象とする研究の中止を呼びかけるオンライン新聞の記事に対して、Guardian誌に研究の必要性を訴える記事が掲載された。後者の記事にPSJ理事長名で署名を行なうことを委員会で検討した。

13. 利益相反委員会報告（小川委員長代理：上田委員）

平成 27 年度第 2 回理事会で利益相反申告書改定が承認されたが、PSJ HP に掲載している申告書（英語版）が更新されていなかったため、修正した。

14. 国際交流委員会報告（久保委員長）

以下 6 点について報告された。

- 1) 浜松大会では、日中合同シンポジウム（CAPS-PSJ シンポジウム）、日韓合同シンポジウム（KPS-PSJ シンポジウム）、日台合同シンポジウム（CPS-PSJ シンポジウム）を実施する。招待講演者計 4 名には、1 名につき 15 万円を上限として旅費の支援を行なう。
- 2) 中国生理学会（CAPS）が主催する「国際生理学会 2016」が 9 月 25 日から 28 日まで北京で開催され、PSJ が提案した CAPS-PSJ シンポジウム 2 件と、PSJ が推薦した丸中良典理事長による Plenary Lecture が実施された。また浜松大会の宣伝活動として、会場でビラ配布と、会期中に開催された FAOPS 理事会での参加呼びかけを行なった。
- 3) オーストラリア生理学会（AuPS）が主催する AuPS2016 大会（12 月 4 日-7 日開催）で AuPS-PSJ 合同シンポジウム開催希望が届いていたが、4 月に確認したところ、シンポジウム枠が既に決まり、実現が難しいことが判明した。平成 29 年 11 月に開催される AuPS2017 大会では実現できるよう、大会に働きかけていく。
- 4) IUPS2017（8 月 1 日-5 日開催）では、提案した中から Plenary Lecturer1 名（宮下保司会員）、Keynote Lecturer2 名（御子柴克彦会員、柳沢正史氏）がそれぞれ決定した。
- 5) IUPS 本体会長の Denis Noble 名誉会員から、大隅良典氏を IUPS2017 に招へいしたいとの要望が届き、丸中良典理事長が対応した。
- 5) 台湾の生理学会（CPS）大会（3 月 25 日-26 日開催）への Plenary Lecturer の推薦依頼が、CPS 学会長と執行部代表より PSJ にあり、委員会で協議のうえ、箕越靖彦会員を推薦したところ、採択された。
- 6) 浜松大会と第 95 回日本生理学会大会（以後、高松大会）では海外から 4 名講演者を招くが、合同シンポジウムの企画については大会長と相談して話を進める。

15. 集会委員会報告（富永委員長）

以下 3 点について報告された。

- 1) 委員を変更した。
- 2) 浜松大会および高松大会の準備状況の説明を受け、計画内容について議論した。
- 3) 第 97 回日本生理学会大会の大会長を、合同大会の可能性も含めた議論を進めている。

16. 将来計画委員会報告（多久和委員長）

以下 2 点について報告された。

- 1) メール会議を開催し、1.研究志向医学生への意欲継続、2.卒後専門医制度の中での基礎研究実現の可能性、3.統合型授業体制の中で生理学のアイデンティティ維持、4.PSJ 会員の多様性への対応、5.中高生など若い世代への生理学の魅力伝達、の計 5 件の課題について委員会間で認識を共有した。
- 2) 専門医制度の中で、基礎研究として生理学の重要性を唱えたいが、署名提出では訴える手段としては弱いと考える。各所属先で個別に活動するよりも、PSJ 理事長から関連機関に直接働きかける等、より影響力が強い方法を検討する。

17. 男女共同参画推進委員会報告（齋藤委員長）

以下 5 点について報告された。

- 1) 札幌大会でランチョンセミナー「仕事も家庭もあきらめない！女性研究者の強くしなやかな生

き方」を開催した。

- 2) 男女共同参画学協会連絡会が主催する第4回大規模アンケートのワーキンググループに、志牟田美佐委員が参加した。完成したアンケートは10月8日から11月7日にわたり実施され、PSJでも計6回にわたりメールでアンケート協力を呼び掛けた結果、PSJ会員による回答率は22.4%となった。
- 3) 浜松大会にシンポジウム「研究者として輝くために…ライフイベントと共に生きる！」を企画提案したところ、ランチョンセミナーとして採択された。開催にあたり、(株)アズバイオと(株)WDBの計2社から協賛を得られることとなった。
- 4) 第14回男女共同参画学協会連絡会が主催するシンポジウム(10月8日開催)に、関野祐子委員、中瀬古寛子委員、志牟田美佐委員が参加した。少作隆子会員がパネラーとして参加し、入澤彩記念女性生理学者奨励賞を紹介した。
- 5) 男女共同参画学協会連絡会を介して内閣府男女共同参画局から「最近の男女共同参画・女性活躍推進の動きについて」の資料周知依頼が届き、PSJ HPに掲載することで対応した。

18. 賞選考委員会報告(松井委員長)

以下3点について報告および承認がなされた。

- 1) 平成28年度第1回理事会で承認されたことを受け、9月に募集開始した日本生理学会奨励賞は、3年以上の正会員歴を有する満42歳以下のPSJ会員を対象とした。
- 2) 重複応募についてPSJ会員から問い合わせがあったことを受け、入澤記念若手賞選考委員会、生理学女性研究者の会運営委員会の各委員長と協議し、1.日本生理学会奨励賞、2.入澤宏・彩記念若手研究奨励賞(心臓循環器部門およびイオンチャネル・トランスポーター部門)、3.入澤彩記念女性生理学者奨励賞の、同一年度の重複申請を不可とした。平成29年度以降の応募についても同様の対応とする提案が出され、本理事会で承認された。本委員会はPSJ HP等で明文化し、会員への周知に努める。
- 3) 平成28年度日本生理学会奨励賞には8名応募があり、そのうち以下の2名を推薦した。(敬称略)

宮本大祐 (名古屋大学 環境医学研究所)

三國貴康 (マックスプランクフロリダ神経科学研究所)

19. 入澤記念若手賞選考委員会報告(當瀬委員長代理)

8名の応募者を研究内容及び業績に基づいて部門で分け、審議した結果、次の4名を選出したことが報告された。(敬称略)

イオンチャネル・トランスポーター部門(2名)

佐藤(沼田)かお理 (福岡大学医学部 生理学)

任 書晃 (新潟大学医学部 分子生理学)

心臓・循環部門(2名)

小比類巻 生 (東京慈恵会医科大学 細胞生理)

津元国親 (大阪大学大学院医学研究科)

20. 入澤賞運営委員会報告(石川委員長)

入澤基金の継続運営を、管理者である二宮石雄会員に相談し、5年の延長許可を得た。

21. 生理学女性研究者の会運営委員会(藤山委員長)

以下2点について報告された。

- 1) 第7回入澤彩記念女性生理学者奨励賞の候補者を募集したところ(11月11日応募締切)、6名より応募があった。現在、選考基準に従って選考委員5名で選考している。

- 2) 第7回、第8回の選考基準では、第1回より設けていた年齢制限を取り払い、1.次の役職に就き、かつ2.多面的な活動に積極的にに関わり、3.優れた研究を行なった女性研究者とした。

第7回 助教・ポスドク・研究員・大学院生など

第8回 教授・准教授・講師・チームリーダーなど

22. 若手の会運営委員会報告（井手委員長）

以下6点について報告および要望が出された。

- 1) 「腸内フローラ」をテーマとしたサマースクールを開催した（8月20日-21日）。
- 2) 浜松大会で、企画シンポジウム「多様な感覚に基づく身体機能の調整 —基礎と臨床の視点から—」を開催する。
- 3) サイエンスカフェ開催の可否は現時点では未定だが、毎年度開催できるようテーマと演者の選定を進めている。
- 4) 若手の会のHPを更新したことで、企画等の情報発信が行ないやすくなった。
- 5) 若手の会の現状について柚崎通介理事より質問が出された。それに対し1.会員数は現在約400名であり、年々増加の傾向にある、2.サマースクールには毎回約40名が参加していることを報告した。
- 6) 若手の会会員が必ずしもPSJに入会しているわけではないので、活動の際にはPSJ入会のご案内をするよう丸中良典理事長より要望が出された。

23. 義援金配分委員会報告（八尾委員長）

以下3点について報告および審議がなされた。

- 1) 平成23年3月11日に発生した東日本大震災に対する義援金は、平成24年4月時点で総額2,396,840円であった。東北地方の生理学の活性化に役立ててきたが、復興が進んだため東日本大震災に対する委員の解散を提案したところ、承認された。
激甚災害に指定された平成28年（2016年）熊本地震（以後、熊本地震）に被災した会員の援助を目的とした義援金配分委員会の立ち上げを渡辺賢副理事長が提案し、承認された。委員は九州地区正会員で構成し、配分等の活動内容については、委員会で検討する。
- 2) 解散するまでに義援金を配分した対象は次のとおり。

項目	実施年度	金額
実習器具、機器破損の修理/更新費用支援	H24	310,650円
学生年会費半額補助	H25,H26,H27	16,500円
PSJ大会参加登録料	H24,H25,H26,H27	957,000円
東北生理談話会参加費補助	H24,H26,H27	117,000円
副賞		
東北日本生理科学奨励賞	H25,H26,H27	250,000円
東北日本生理科学有志賞	H25,H26,H27	50,000円

- 3) 平成28年4月に発生した平成28年（2016年）熊本地震へPSJは対応することが、5月に理事長・副理事長会議で決議された。委員会の役目を果たし、解散を検討していたこともあり、口座残高を熊本地震対策援助に役立ててもらうことを委員総意で決定した。丸中良典理事長の承認を得て、熊本地震義援金口座開設後、残高609,150円から資金移管手続に係る振込手数料（864円）を差し引いた608,286円を、当該口座へ移管した。

24. フィジオーム・システムバイオロジー推進特別委員会報告（倉智委員長代理：古谷会員）

IUPS PresidentであるDenis Noble名誉会員の講演会を大阪大学で開催した（10月7日開催）。開催にあたり、会員へはメーリングリストとダイレクトメールで案内した。

25. 日本学術会議報告（河西会員）

以下4点について報告された。

- 1) 札幌大会で日本学術会議後援シンポジウム「技術革新が拓く機能医科学の新たな展開」（座長：高木都会員、平井宏和会員）を開催し、約300名が参加した。
- 2) 第23期学術の大型研究計画に関するマスタープラン（以後、マスタープラン2017）公募には複数の基礎医学関連の分科会と共同で、機能解析のためのイメージングセンター創設と大規模ネットワーク解析により疾病予防・治療法開発・創薬を目指す計画案を提案した。採択可否は本年末発表予定と日本学術会議より公表されている。
- 3) 基礎医学の複数の分科会と共同で、平成29年1月22日にシンポジウム開催を予定している。
- 4) 日本学術会議第23期終了（平成29年9月）に伴い、平成29年前半で改選の準備が始まる。生理学の研究基盤充実化や人材育成等の意見要望を、日本学術会議を通じて社会に発信するべく、PSJ会員を学術会議会員もしくは連携委員へ就任できるよう、PSJ内関係者で連携したい。

26. 日本医学会連合報告（赤羽副理事長）

以下3点について報告された。

- 1) 平成28年度定時総会が6月17日に開催された。
- 2) 平成28年度日本医学会連合会費（167,050円）を納入した。年会費は、日本医学会連合から提示された式に従い（基本料金5万円+評議員・一般会員数1人あたり50円）で算出している。会費支出の際は、丸中良典理事長と石川義弘副理事長の支出許可を得た。
- 3) 第84回日本医学会定例評議員会は平成29年2月17日に開催予定となっている。

27. 日本医学会用語委員会報告（佐久間会員）

教育委員会と協力して、William F. Ganongの索引を母体とした医学用語辞典の作成を進めている。丸善株式会社からの出版を予定している。

28. 国際生理科学連合（IUPS）報告（御子柴会員）

以下2点について報告された。

- 1) IUPSは、日本学術会議による「国際学術団体活動状況」の調査を、日本からの参加が国民にもたらすメリット等を追加することで通過した。
- 2) IUPS2017プログラム委員会が8月24日から9月4日に開催された。ここで大隅良典氏の招へいについて話題が上がっていなかったため、IUPS会長とプログラム委員会間で異なる思惑が働いている可能性を考慮し、PSJ内で情報の共有するよう努める。その一環として、丸中良典理事長からDenis Noble名誉会員とのやり取りについて情報を収集する。

29. アジア・オセアニア生理学会連合（FAOPS）報告（久保副理事長）

以下2点について報告された。

- 1) これまでFAOPS理事会は、FAOPS大会開催に伴い4年に1回開催されてきた。今回は4年を待たずに、CAPS主催の国際生理学会（9月25日-28日開催）時に多数の理事が会する機会となったため、北京で理事会が開催された。
理事会では1. Physiology Quiz大会で使用される言語を開催国の母国語ではなく、英語とする意義についての議論、2. 各種インターンシップやトラベルアワードの積極的な活用が、アジア・オセアニア地区の研究レベル向上に有用との認識共有、3. FAOPS会費納入額を決定する尺度の再検討、4. メール審議実施の提案、5. FAOPS2019にてFAOPS30周年記念事業開催の検討、の4点が行なわれた。2.が議題となった際には、浜松大会のトラベル грант実施を紹介し、参加を促した。
- 2) 次回理事会はIUPS2017（8月1日-5日開催）時に、リオデジャネイロで開催予定とされている。

る。

30. FAOPS2019 組織委員会報告（鍋倉委員長）

以下 3 点について報告された。

- 1) FAOPS2019 につなげるため、FAOPS member country から浜松大会に参加登録する際の参加費を、PSJ 会員と同額にするよう大会事務局に相談し、承諾を得た。
- 2) 第 96 回日本生理学会大会との切り分けとして、FAOPS2019 の枠内で開催するイベントは英語で実施することとし、日本語で実施されるイベントは FAOPS2019 の枠外とすることとした。
- 3) アジア・オセアニア地区でのリーダーシップを示すためにも 7,000 万円から 8,000 万円規模での開催を想定しており、実現するために IUPS2009 開催時と同様に会員からの寄付を募りたい。会員への周知は平成 29 年 4 月以降に予定している。

31. 生物科学学会連合報告（渋谷理事代理：渡辺副理事長）

以下 2 点について報告および審議がなされた。

- 1) 2017 年度生命科学系学会合同年次大会（以後、合同年次大会）が開催されるが、PSJ 理事長・副理事長で審議の結果、PSJ は協賛およびシンポジウム企画をすることとなった。
- 2) 合同年次大会に、シンポジウム企画「生体恒常性維持の脳内メカニズム（仮題）」（オーガナイザー：中村和弘会員）を提案したところ、承認された。中村和弘会員の旅費は PSJ より支出することとし、清算の際には PSJ 旅費規程に従うものとする。

32. 日本脳科学関連学会連合報告（伊佐理事）

以下 3 点について報告された。

- 1) 5 月 28 日に開催された第 5 回評議員会で第 3 期役員が選出され、PSJ からは副代表に伊佐正理事が選出された。代表の交代は 2 年毎に行なわれる。
- 2) 平成 29 年に 20 周年を迎える理化学研究所の脳科学総合研究センターに、これまでの活動に対する評価と今後の活動に対する希望を報告した。
- 3) 10 月 23 日に将来構想委員会が開催され、第 3 期の委員を選出した。

33. 第 93 回（平成 28 年）日本生理学会大会報告（當瀬大会長）

平成 28 年 3 月 22 日から 24 日の 3 日間、「生きるしくみをみつめる ー新しい生理学の創造ー」をテーマに開催した札幌大会は、皆様の参加および協力を得て盛況のうちに閉会することができた。大会が成功したことについて、感謝の意が述べられた。

- 1) 事前登録と当日申込を合わせて 1,528 名が参加し、演題数 927 件が行なわれた。
- 2) 全体懇親会は 241 名（事前登録 234、当日参加 7）が参加した。

34. 第 94 回（平成 29 年）日本生理学会大会準備状況報告（大会長代理：秋田大会事務局長）

以下 7 点について報告および審議がなされた。

- 1) 浜松大会 HP を 5 月 31 日に公開し、随時更新している。HP では大会会期中の宿泊予約も可能となっている。
- 2) 11 月 22 日時点で約 1,000 名の事前参加登録および 900 題程の演題登録を確認している。
- 3) 大会運営費を捻出するために、現在も協賛を募集している。協賛企業は HP 内「協賛御礼」で紹介する。
- 4) 託児所を大会会期中に設置する。全体懇親会時にも託児できるよう手配する。
- 5) 大会が国際的に開かれたものであるためにも、英語での発表は継続されるべきである。一方で発表内容によっては、その専門性から日本語での発表が容認されているが、PSJ 会員に周知されていないように見受けられるため、周知することを本理事会に提案した。これに対し、大会は原則として英語での発表とし、地方会は参加者の裾野を広げることを目的として日本語での

発表を容認する方針とするが、co medical の大会参加も想定し、将来計画委員会等関連する委員会で審議することとした。

- 6) 大会運営するにあたり、大会参加費は重要な資源であるが、現状では非会員のシンポジストからは徴収していない。他領域の研究が PSJ 会員にもたらす情報の貴重さは計り知れないが、運営という観点から、シンポジストにも参加費を払ってもらうことを本理事会に提案したところ、高松大会に向けて集会委員会等関連する委員会で審議することとなった。
- 7) 教育プログラムを開催する際に使用する会場や機材等、また educator café で提供する茶菓代は、学会本体からの予算から捻出することを提案したところ、理事長・副理事長で審議することとなった。

35. 第 95 回（平成 30 年）日本生理学会大会準備状況報告（徳田大会長）

以下 4 点について報告および審議がなされた。

- 1) 平成 30 年 3 月 28 日から 30 日の 3 日間、サンポート高松およびサンポート高松シンボルタワーを会場として高松大会を開催する。テーマは「遍くめぐる生理学の路 ~生命科学の飛躍のために~」とする。
- 2) 135 演題程、口述発表を予定している。その際に使用する言語は、国際交流委員会等関連する委員会に相談して決定したい。
- 3) 全体懇親会の開催は難しいが、大会 2 日目に軽食を用意して会食開催を予定している。
- 4) 市民公開講座はこれまで大会が実施してきたが、学会のアウトリーチ活動として学会主催を提案したところ、大会に一任したいとの意見が富永真琴集会委員会委員長から出された。理事長・副理事長で継続審議することとなった。

36. その他

特になし

II. 審議事項

1. 平成 28 年度第 1 回議事録について
新たな修正はない。
2. 新体制について
委員更新があった委員会は、全て承認された。
3. 平成 28 年度会計報告（中間）
石川義弘財務担当副理事長より報告があり、承認された。
4. 平成 29 年度予算案
石川義弘財務担当副理事長より、前年度に比して増減がある科目の説明があり、承認された。
5. 会計監査を依頼する税理士事務所について
平成 28 年度第 1 回理事会で承認されたように、PSJ 担当税理士に変更ないことを確認した。
6. 評議員の選考
評議員推薦を平成 29 年 1 月末日まで受け付けていることを、丸中良典理事長が案内した。
7. 会員等に関する規程について
 1. 会費未納が 2 年にわたったため定款第 8 条 4 に該当し、退会処分となった元会員の退会日は、会費納入年の年度末とする、
 2. 休会制度を新設し、留学や出産・介護等で PSJ 活動に参加できない会員を救済する、
 3. 日生誌発行数減少に伴い、準会員会費を見直す、の計 3 点が提案され、会員委員会で継続審議することとなった。エデュケーター制度における認定にも関わってくるため、生理学エデュケーター認定制度委員会でも審議する。
8. 旅費規程について
PSJ 予算で委員会活動にかかる旅費清算を行なう場合は、理事会もしくは理事長・副理事長

の承認が必要であることを明記した「旅費規程別則」について審議された。
別則によって委員会活動を妨げることがないことを確認し、承認された。

9. その他

次回、平成 29 年度第 1 回理事会は平成 29 年 3 月 27 日 13 時から開催する。